

カボチャ

管内の生産状況（平成28年）

みやこ

栽培面積	2,137 a
出荷量	207 t
生産者戸数	42戸

味平

栽培面積	5,237 a
出荷量	371 t
生産者戸数	50戸

銀世界

栽培面積	991 a
出荷量	66 t
生産者戸数	23戸

坊ちゃん

栽培面積	149 a
出荷量	8 t
生産者戸数	6戸

その他

栽培面積	1,780 a
出荷量	81 t
生産者戸数	22戸



生産・出荷の取組み

長期安定出荷により市場ニーズに対応することを目的として、品種・作型（さまざまな条件や技術の組み合わせ）を選択し、栽培しています。

基本となる品種は「みやこ」で、作型はビニールハウス、露地トンネル（トンネル状の枠にビニールをかぶせて保温した中での栽培）を利用した早出しです。近年は、道内のトップを切って出荷しています。

早期出荷に関しては、病害虫の影響を受けにくく、農薬散布回数も控えることができるため、減農薬栽培につながっています。

「みやこ」に続く露地栽培の品種として、大面積での作付けが可能な「味平」「銀世界」があり、定植（苗植え）は6月上旬頃から始まります。

「坊ちゃん」はビニールハウス、露地トンネル栽培で生産しており、すべてアーチ栽培（アーチ型の骨組みに苗を這わせぶら下がった状態での栽培）を行っているのでグランドマーク（地這い栽培で日光が当たらず黄色になる部分）がなく、ギフト需要が高い品種です。

どの品種も品質を最重要視し、必ず圃場で「試し割り」を行い、収穫適期を判断しています。

また、生産者には栽培履歴（肥料や農薬の種類や使用量を記入した書類）・GAP（生産工程の管理や改善を行う取組み）の記帳を義務付け、肥料・農薬適正使用のチェックを行っています。

栽培品種の特徴

みやこ

果実はやや小型で果皮は濃緑色で、形状は偏円タイプです。果肉は粉質が強く（ホクホク感があり）、甘みもあります。ハウス栽培ものは、6月下旬から収穫が始まり、露地トンネルものが終わる9月上旬まで収穫が続きます。

味平

果実はやや大型、果皮は濃緑色で、形状は偏円タイプです。果肉は粉質系で、糖度が高いです。露地で栽培されており、出荷は8月中旬～10月中旬までです。

銀世界

果実は中～大玉、果皮は白色で白艶が良く、形状は偏円タイプです。果肉は厚く、収穫直後では強粉質で荷くずれしやすいため、3週間程度貯蔵すると甘味も増します。雪化粧同様、保存性が良く、晩秋から需要が高くなります。露地で栽培されており、出荷は8月中旬～10月下旬までです。

坊ちゃん

果重は500g前後で、果皮色は黒緑色に浅いストライプが入った偏円の強粉質種で、ミニカボチャとしては特に食味が良く、ラップをかけて電子レンジで丸ごと5～8分加熱するだけでおいしく食べられます。

